

< 近藤 常恭 (こんどう つねやす) >

国、地域：オーストリア（ウィーン）

年 齢：84歳

現 職：日本食材店「日本屋」 経営相談役



欧州における日本食品普及のパイオニア

- ・ 1960年に渡独して以来55年間、ドイツ、イギリス、オーストリアで日本料理店、日本食材の輸入・販売店や日本茶の小売・喫茶店を経営。
- ・ 1972年のミュンヘン・オリンピックでは、選手団に日本食を提供。
- ・ 東日本大震災の被災地の学校に楽器を送るためチャリティーコンサートや募金に協力。

1960年に渡独。先に渡欧していた二人の兄と共に西ベルリンにて日本の食品や雑貨の輸入会社を設立。更に、1965年に西ベルリン初の日本食レストランを開業し、当時欧州では未だ馴染みの薄かった日本食を普及するパイオニアとして活躍。以降、食品を含む幅広い日本商品の欧州への紹介と販売に携わる。

1970年にロンドン、1972年にオーストリア初の日本料理店をウィーンに開業した。また、同年に開催されたミュンヘン・オリンピックの際、日本料理店の仮営業所をミュンヘンに設置して日本食を提供し、日本選手団の大きな活力源となった。

1974年にオーストリア・ウィーンにて日本食品専門店「日本屋」を開店し、「食文化を通じて欧州諸国の人々に日本への理解と親しみを深めてもらう」という精神で40年以上にわたって営業を行い、顧客を増やし続けている。加えて、日本食品の入手が難しい、旧ユーゴ圏やバルト諸国、更に遠くは中近東からカザフスタンまで日本産食品の輸出にも取り組んでおり、昨年（2014年）の日本産食品の輸入額は600,000ユーロ（約8,000万円）に達した。また、2006年に、ウィーンにて喫茶も兼ねた日本茶専門店「茶の間」を隣接して開店し、現地市民への日本茶の普及にも努めている。

東日本大震災発生後は、被災者支援チャリティーコンサートに協力した他、楽器を失った被災地の学校への楽器寄贈のための募金活動を店頭で展開。更に、原発事故以降の日本食の安全性への懸念を払拭するための啓蒙活動を行っている。

現在は、長女に日本屋の経営を引き継いだが、経営相談役として活動。